

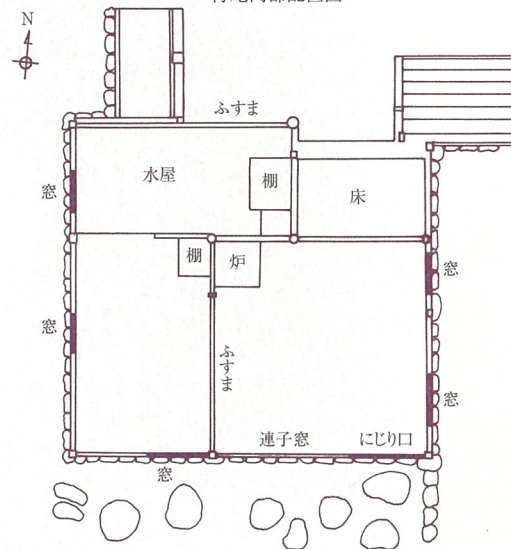
豊興山妙喜庵

妙喜庵は室町時代明応年間（四九二—五〇〇）の創建で臨済宗東福寺派に属する。当庵は連歌師山崎宗鑑の隠棲地を開山春嶽禪師が庵としたもので、書院が重要文化財として残っている。

天正十年六月当庵三世功叔禪師の時、天王山合戦がおこり、当庵も羽柴秀吉の安息所となったと云う。秀吉は安土より千利休を招いて茶室をつくらせ、茶人として知られていた功叔禪師も、利休と共に茶を点じ禪を談じて陣中の苦勞を慰めたと云う。

茶室待庵は利休独特の構想で建てられ、壁や天井、床ノ間、窓の配置等、特筆すべきものがあり、現存する利休の茶室としては唯一のもので国宝となっている。

待庵内部配置図



国宝 重文

妙喜庵茶室・書院







